

屋内の安全性を高める

地震で建物が倒壊しなくても、大きな家具の転倒、家電製品の落下、ガラスの飛散などにより大きなケガをしたり逃げ場をふさがれたりします。事前に家具などの固定や配置方法の工夫を行い、屋内の安全性を高めておきましょう。

<h3>収納に工夫を</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●タンスや本棚などにもものを入れる場合は、重いものは下に、軽いものは上に収納するようにします。 ●本棚は隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく空間を作らないようにしましょう。 	<h3>耐震金具を利用しよう</h3> <h4>転倒防止金具</h4> <p>壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、天井などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。</p>
<h3>照明器具の補強を</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●吊り下げ式蛍光灯は、チェーンなどで止めておきましょう。 	<h4>重ね留め用金具</h4> <p>重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎます。</p>
<h3>置き方に工夫を</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●家具の下部の前方に転倒を防止するための板などを入れ、壁にもたれ気味にします。 ●出入口や通路には、なるべく荷物を置かないようにしましょう。 ●就寝場所に家具が倒れてこないように、配置の工夫を。 <p>地震のときに家具などが就寝部分に倒れたり、避難経路をふさぐ位置に配置されていませんか？</p>	<h4>扉・引き出し開放防止金具</h4> <p>地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふきんを敷いたり、木やアルミ棒による飛び出し防止枠をつけると安心です。</p> <p>手近な取り出しやすい所に運動靴などを用意しておく、災害時の足のケガを防止できます。</p>
<h3>ガラスの飛散防止を</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。 	

建物の被害を軽減する

建物の耐震性を確認するために、まずは耐震診断を受けましょう。安全でないと診断された場合は、適切な耐震改修を行うことで安全性を確保できます。専門家に相談してわが家にもっとも適した工事方法を選び、耐震改修を行いましょう。

<h3>軽い材料の屋根に変えることで耐震性を向上</h3> <p>軽量化については、耐震壁などの上部構造各部の補強とあわせ、全体で考えましょう。</p>	<h3>基礎の補強で建物の性能UP</h3> <p>無筋コンクリートは耐震性に乏しく、崩壊しやすいので、新たに鉄筋コンクリート造の基礎を抱き合わせましょう。</p> <p>ひびの入った基礎は樹脂などを注入して補強</p>
<h3>腐朽部分は交換しよう</h3> <p>劣化した部材を部分的に取り替えた場合、接合部が弱点にならないように補強しましょう。</p> <h3>接合部を補強する</h3> <p>山形金物・筋かいプレート・火打金物・制震金物などで補強することで地震の揺れによるひずみに耐えることができます。</p>	<h3>壁を補強する</h3> <p>耐力壁(※)の量を増やすと、建物は丈夫になります。壁の配置にかたよりがあると、地震で建物がねじれるおそれがあります。壁の少ない側に耐力壁を設ける補強をして、建物のバランスを良くします。</p> <h3>ひと部屋だけを耐震化することも有効</h3> <p>家全体の耐震改修が困難な場合、ひと部屋だけでも補強して安全空間を作っておくと、いざというときに逃げ込む場所として有効です。</p>

※耐力壁とは…構造用合板などを張り、想定される地震力に抵抗できる壁のこと(筋かいの入った壁も含む)

緊急地震速報を見聞きしたら…

「緊急地震速報」は、地震によって大きな被害が出ると予想される地域を対象に、揺れが始まる前にテレビ・ラジオ・防災行政無線や携帯電話(対応機種)などからみなさんに伝えられます。この「緊急地震速報」を見聞きしてから数秒～数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。

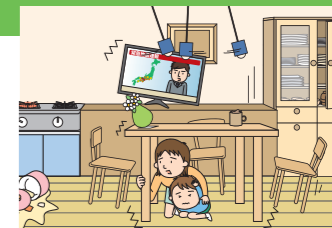
<h3>家庭では…</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる。 ●あわてて外へ飛び出さない。 ●無理に火を消そうとしない。 	<h3>屋外では…</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●ブロック塀の倒壊等に注意する。 ●看板や割れたガラスの落下に注意し、丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に避難する。 	<h3>人が大勢いる施設では…</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●施設の係員の指示に従う。 ●落ち着いて行動する。 ●あわてて出口に走り出さない。
<h3>自動車運転中は…</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●あわててブレーキをかけない。 ●ハザードランプを点灯し、揺れを感じたらゆっくり停止する。 	<h3>鉄道やバスでは…</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●つり革や手すりにしっかりつかまる。 	<h3>エレベーターでは…</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●最寄りの階で停止させ、すぐに降りる。
	<h3>山やがけ付近では…</h3> <ul style="list-style-type: none"> ●落石やがけ崩れに注意する。 	<h3>周囲の状況に応じて、あわてずに身の安全を確保しよう</h3>

地震が起きたとき、とるべき行動

地震発生時には、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。また、海岸付近で強い揺れを感じた場合は、すぐに津波が来襲することがありますので、津波警報や津波注意報の発表を待たず、ただちに高台などに避難してください。

地震発生! 自分の命は自分で守る

- 「頭を保護する」「大きな家具から離れる」「丈夫な机の下に隠れる」など、落ち着いて自分の身を守る。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
- 土砂災害の危険が予測される区域にいる場合はすぐ避難する。



1~5分 家族を守る

- 揺れが収まってから行動する。
- 家族の安全を確認する。
- 火の元を確認・初期消火。
- 足をケガしないように靴をはく。
- 非常持ち出し品等を手元に用意する。
- 余震に注意。



5~10分 地域を守る

- 隣近所の安全を確認。
- 安全な場所に移動してから、防災無線やラジオなどで情報を確認する。
- 電気のブレーカーを切る・ガスの元栓を閉める。
※復旧時の火災・事故を防ぐため
- 家屋倒壊などのおそれがあれば避難する。



10分~数時間後 避難生活 助け合いの心で…

- 協力して消火・救出活動。
- 水・食料は備蓄品でまかなう。
- 災害情報、被害情報の収集。
- 壊れた家には入らない。
- 引き続き余震に注意。
- 避難所では集団生活のルールを守る。



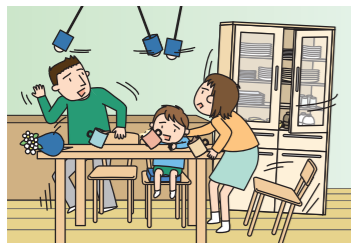
藤井寺市における地震被害想定

大阪府では、平成19年度に実施した内陸の断層帯による地震被害想定と、平成26年度に実施した南海トラフによる地震被害想定が公表されています。藤井寺市では、生駒断層帯による地震がもっとも大きく揺れると想定されています。

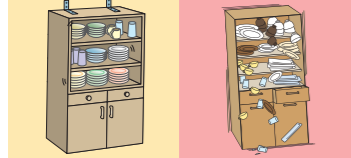
種別	マグニチュード	計測震度	全壊棟数	半壊棟数	死者数	負傷者数
生駒断層帯地震	7.3～7.7	6強～7	15,146棟	3,695棟	657人	1,212人
南海トラフ地震	9.0	6弱	94棟	1,214棟	3人	1,568人

震度と揺れの状況

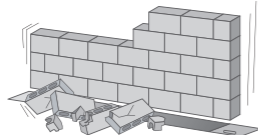
震度 5強



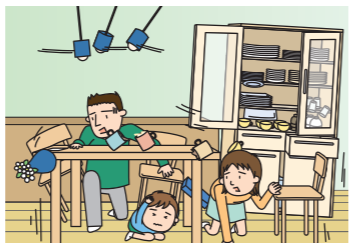
耐震性が高い 耐震性が低い



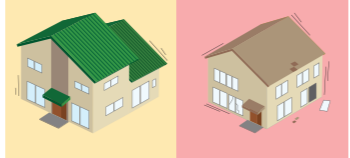
- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度 6弱

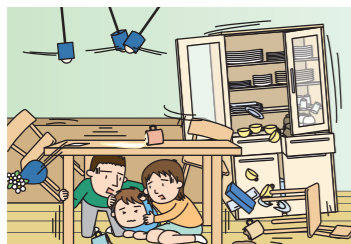


耐震性が高い 耐震性が低い



- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

震度 6強



耐震性が高い 耐震性が低い



- はわなないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

震度 7



耐震性が高い 耐震性が低い



- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

●地下水が十分に満たされている砂地盤に地震動が作用すると、砂粒子が液体のように動き、地下水に浮かんだ状態になることです。液状化した砂や地下水は、地盤の弱いところから地表に噴き出すことがあります。

●液状化した地盤では、その上に建っている建築物や構造物が大きな被害を受けます。

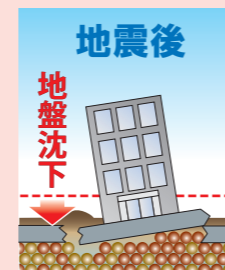
●地下埋設管などが大きな被害を受け、マンホールや管自体が地上に浮上してしまうことさえあります。



砂などの粒がお互にくっついて、その間に水がある状態。



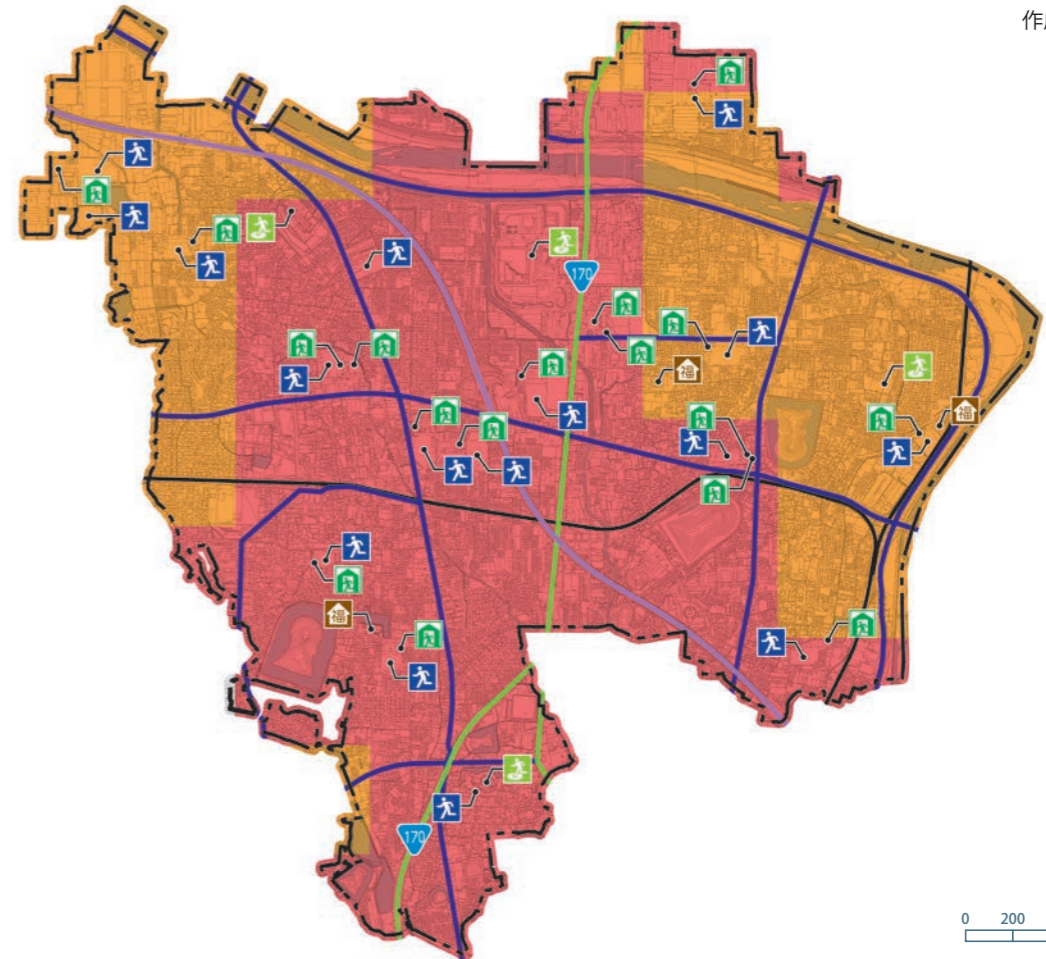
砂の粒同士が離れて、水に浮いた状態になる。



しばらくすると、バラバラになった砂の粒が沈んで、地面に水が出てくる。

震度分布(揺れやすさ)

作成主体:大阪府危機管理室



震度
震度6強
震度7

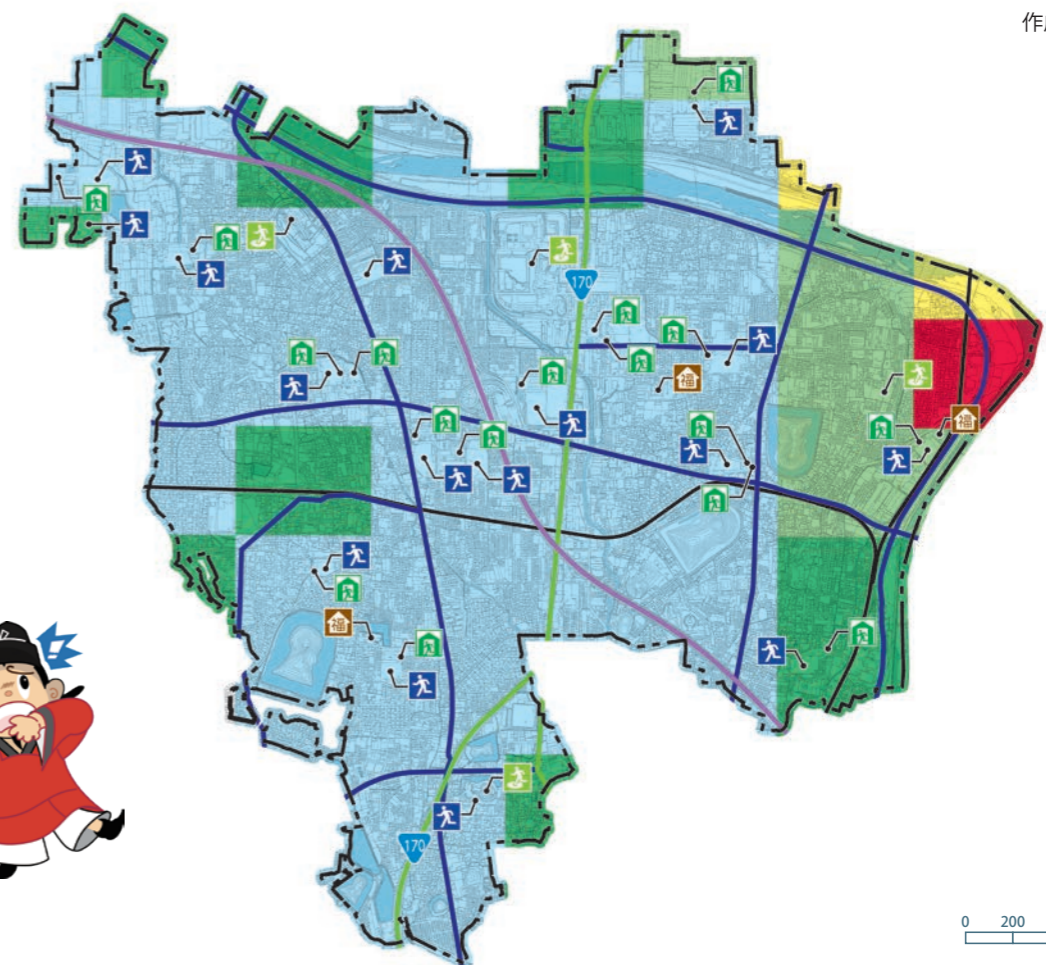
施設等

- 一時避難場所
- 二次避難施設(福祉避難所)
- 広域避難場所
- 指定避難所
- 高速道路
- 国道
- 主な道路
- 鉄道

0 200 400 600 800 1000m

液状化危険度

作成主体:大阪府危機管理室



液状化危険度
極めて低い
高い

施設等

- 一時避難場所
- 二次避難施設(福祉避難所)
- 広域避難場所
- 指定避難所
- 高速道路
- 国道
- 主な道路
- 鉄道

0 200 400 600 800 1000m